

年度	氏名・所属機関・業績題目
第42回 2006年(平18)10月	48.西山 幸廣 博士 名古屋大学大学院医学系研究科微生物・免疫学講座ウイルス学分野 教授 (業績の題目) ヘルペスウイルスに関する基盤研究とその応用
第43回 2007年(平19)10月	49.馬原 文彦 博士 馬原医院 院長 (業績の題目) 日本紅斑熱の発見と臨床的疫学的研究
第44回 2008年(平20)10月	50.岡本 宏明 博士 自治医科大学感染・免疫学講座ウイルス学部門 教授 (業績の題目) 肝炎ウイルスの分子医学的研究とその応用
第45回 2009年(平21)10月	51.伊藤 亮 博士 旭川医科大学医学部寄生虫学講座 教授 (業績の題目) エキノコックス症に関する免疫診断法の開発と流行地での応用
第46回 2010年(平22)10月	52.藤田 尚志 博士 京都大学 ウイルス研究所 教授 (業績の題目) 細胞質ウイルスセンサーRIG-Iファミリーの発見
第47回 2011年(平23)10月	53.吉開 泰信 博士 九州大学生体防御医学研究所附属感染ネットワーク研究センターセンター長 教授 (業績の題目) $\gamma\delta$ 型T細胞の発見と感染防御機構での役割の解明
第48回 2012年(平24)10月	54.荒川 宜親 博士 名古屋大学大学院医学系研究科分子病原細菌学/耐性菌制御学分野 教授 (業績の題目) 病原細菌が獲得した新規薬剤耐性機構(16SリボソームRNAメチラーゼ)に関する体系的研究
第49回 2013年(平25)10月	55.江崎 孝行 博士 岐阜大学大学院医学系研究科再生分子統御学講座病原体制御学分野 教授 (業績の題目) 病原細菌の分類手法の開発とそれを利用した微生物の社会基盤の確立
第50回 2014年(平26)10月	56.中谷比呂樹博士 世界保健機関(WHO)本部事務局長補 医学博士 (業績の題目) 不健康と貧困の悪循環を断つための地球規模での公衆衛生学的アプローチ
第51回 2015年(平27)10月	57.瀬谷 司 博士 北海道大学大学院医学研究科免疫学分野 教授 (業績の題目) 自然免疫の自己・非自己識別機構に関する研究
第52回 2016年(平28)10月	58.山崎 晶 博士 九州大学生体防御医学研究所感染ネットワーク研究センター免疫制御学分野 教授 (業績の題目) 結核菌受容体群の発見と宿主免疫賦活化機構の解明
第53回 2017年(平29)10月	58.森 康子 博士 神戸大学大学院医学研究科附属感染症センター臨床ウイルス学分野 教授 (業績の題目) ヒトヘルペスウイルス6B受容体の発見とウイルス侵入機構の解明

## 平成30年度 第54回 「小島三郎記念文化賞」推薦依頼

拝啓 春暖の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本事業は、元国立予防衛生研究所長故小島三郎博士のご遺徳を永く記念すべく、1965年(昭和40年)4月に創設され、その記念事業の一つとして「小島三郎記念文化賞」が設定されております。

本賞は、故小島三郎博士が広く関係をもたれていた病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績をあげた方に贈呈するものであります。

つきましては、貴殿より次頁の審査規定をご参照の上、本賞受賞候補者のご推薦を賜りたくお願い申し上げます。

敬具

平成30年3月吉日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は

東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7 栄研化学株式会社内にあります。

TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514

URL <http://www.kmf.or.jp>

E-mail: [info@kmf.or.jp](mailto:info@kmf.or.jp)

平成30年度 第54回  
「小島三郎記念文化賞」審査規定

1. 本賞は、「小島三郎記念文化賞」と称する。
2. 本賞は、病原微生物学、感染症学、公衆衛生学その他これらに関連した領域において学問的に顕著な業績で、しかも我が国の文化に貢献したと思われる研究成果に対して贈るものである。
3. 審査の対象は、原則として最近の業績であり、かつ、評価の定まったものとする。
4. 本賞受賞候補者の審査は、本財団が委嘱した選考委員がこれを行う。
5. 本賞受賞候補者の推薦は、本財団が関係領域の学識経験者に委嘱するのを原則とする。
6. 本賞の審査は、毎年1回行う。

附則

- (1) 推薦用紙は、本財団ホームページよりダウンロードしてご使用ください。(年度毎に改訂されますのでご注意ください。)
- (2) 推薦用紙とともに、論文別刷などの資料を同封してください。
- (3) 締切りは平成30年5月31日(木)必着とします。
- (4) 送付先

(切り取ってご使用ください)

〒110-8408

東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7

栄研化学(株)内

公益財団法人 黒住医学研究振興財団宛

本賞の第17回から第53回までの受賞者は次の方々です。

(第1回からの詳細は財団ホームページを参照願います。)

年度	氏名	所属機関
第17回 1981年(昭56)11月	20.牧野 慧 博士	北里研究所ウイルス部長
第18回 1982年(昭57)11月	21.中谷林太郎博士	東京医科歯科大学微生物学 教授
第19回 1983年(昭58)11月	22.中江 太治 博士	東海大学医学部総合医学研究所 教授
第20回 1984年(昭59)11月	23.本間 守男 博士 24.中嶋 宏 博士	神戸大学医学部微生物学 教授 WHO西太平洋地域 事務局長
第21回 1985年(昭60)11月	25.竹田 美文 博士	東京大学医科学研究所 教授
第22回 1986年(昭61)11月	26.西岡久壽彌博士	北里研究所肝臓病研究センター顧問
第23回 1987年(昭62)11月	27.須藤 恒久 博士	秋田大学医学部微生物学 教授
第24回 1988年(昭63)10月	28.山西 弘一 博士	大阪大学微生物病研究所 助教授
第25回 1989年(平元)11月	29.五十嵐 章 博士	長崎大学熱帯医学研究所 教授
第26回 1990年(平2)11月	30.斎藤 和久 博士	国際医学情報センター 理事長
第27回 1991年(平3)11月	31.倉田 毅 博士	国立予防衛生研究所 病理部長
第28回 1992年(平4)11月	32.日野 茂男 博士	鳥取大学医学部ウイルス学 教授
第29回 1993年(平5)11月	33.小澤 敦 博士	東海大学医学部 特任教授
第30回 1994年(平6)11月	34.速水 正憲 博士	京都大学ウイルス研究所 教授
第31回 1995年(平7)11月	35.佐藤 勇治 博士 36.木村三生夫博士	前・国立予防衛生研究所細菌部 室長 東海大学名誉教授
第32回 1996年(平8)11月	37.宮村 達男 博士	国立予防衛生研究所ウイルス第2部長
第33回 1997年(平9)11月	38.相川 正道 博士 39.本田 武司 博士	東海大学総合医学研究所 教授 大阪大学微生物病研究所 教授
第34回 1998年(平10)10月	40.中村 信一 博士	金沢大学医学部医学科(微生物学) 教授
第35回 1999年(平11)10月	41.光山 正雄 博士	京都大学大学院医学研究科 教授
第36回 2000年(平12)10月	42.内山 竹彦 博士	東京女子医科大学微生物学免疫学 教授
第37回 2001年(平13)10月	43.尾身 茂 博士	WHO 西太平洋地域 事務局長
第38回 2002年(平14)10月	44.品川 森一 博士	帯広畜産大学公衆衛生学 教授
第39回 2003年(平15)10月	45.橋爪 壮 博士	(財)日本ポリオ研究所 理事長
第40回 2004年(平16)10月	46.山口 惠三 博士	東邦大学医学部微生物学講座 教授
第41回 2005年(平17)10月	47.渡邊 治雄 博士	国立感染症研究所 副所長

第25回研究助成金贈呈者の研究課題一覧 (平成29年度) 参考

氏名	所属	研究課題	選考対象
おおたにかつき 大谷 克城	旭川医科大学医学部 微生物学講座 准教授 医学博士	羊赤血球を使用しない新たな補体活性化測定系の開発	臨床免疫学
おおはらとしあき 大原 利章	岡山大学大学院医歯薬学 総合研究科 病理学(免疫病理) 助教 医学博士	磁性粒子ポリマーを用いた新規迅速免疫染色法の開発	人体病理学
かんだみつろう 神田 光郎	名古屋大学医学部附属病院 消化器外科二 助教 医学博士	新しい胃癌血清腫瘍マーカー開発のための国際多施設共同前向き観察研究	疫学
きょうびこ 姜 美子	東邦大学医療センター佐 倉病院臨床検査部/医学研 究部 臨床検査技師副技 師長 医学博士	新規の脂肪ブラウニングマーカー可溶性 LR11の検査学的意義と制御機構	臨床化学
さかいゆきこ 坂井 優喜子	金沢大学附属病院検査部 臨床検査技師	全ゲノム解析を用いた <i>Clostridium difficile</i> の病原性に関する研究	臨床微生物学
ささのてつお 笹野 哲郎	東京医科歯科大学大学院保 健衛生学研究科 生体検査科 学専攻生命機能情報解析学 准教授 医学博士	標準12誘導心電図のP波 fragmentation 解析による簡便な心房細動発症リスク評価	一般・生理学
さわはたみちる 澤幡 美千瑠	自治医科大学呼吸器内科 学講座 講師 医学博士	非小細胞肺癌患者の血液・気管支鏡検体を用いた INF- $\gamma$ ELISpot アッセイによる免疫チェックポイント阻害薬の効果予測研究	臨床免疫学
すずきあつお 鈴木 敦夫	名古屋大学医学部附属病 院医療技術部 臨床検査 部門 臨床検査技師 医療 技術学博士	日本における合成基質法による血液凝固第VIII因子活性測定の新規測定法の構築	検査血液学
たかさわあきら 高澤 啓	札幌医科大学医学部病理 学第二講座 助教 医学博士	質量分析イメージング法による FFPE 組織からのアミロイドーシスの新規同定技術の開発	人体病理学
なかやまひろなお 中山 寛尚	広島国際大学保健医療学 部医療技術学科臨床検査 学専攻 講師 医療技術学博士	軸索誘導因子を用いる新規大腸癌バイオマーカーの開発と応用	臨床化学
はしくらゆうき 橋倉 悠輝	宮崎大学医学部附属病院 検査部 臨床検査技師 医学博士	HTLV-1欠損プロウイルスの網羅的検出法の開発および感染メカニズムの解明	臨床微生物学
まつおひでまさ 松尾 英将	京都大学医学部附属病院 検査部 臨床検査技師	正常核型急性骨髄性白血病における新規予後因子探索	分子生物学
やなぎさわりゅう 柳沢 龍	信州大学医学部附属病院 輸血部 准教授 先端細胞治療センター 副センター長 医学博士	難治性川崎病に対する治療層別化実施体制に向けた末梢血血液像応用の検証	検査血液学
やまざわかずき 山澤 一樹	東京医療センター 臨床遺伝センター/小児科 医員 医学博士	DOHaD 説に立脚した不当軽量(SGA)児メチル化解析による生活習慣病バイオマーカーの開発	分子生物学
やまだかげと 山田 景土	公財)東京都保健医療公社 豊島病院 検査科 臨床検査技師	食中毒患者由来カンピロバクターの抗菌薬 MIC 年次推移と薬剤耐性株の分子疫学および耐性機構に関する研究	臨床微生物学

総申請者 239名  
研究助成金総額 1,500万円(15名)

所属機関長殿

平成30年度 研究助成のご案内について

拝啓 時下ますますご隆盛のこととお慶び申し上げます。

平素は、本財団の活動に格別なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

ご承知の如く本財団は、研究助成事業と顕彰事業を2本の柱とする事業を展開しております。

さて、平成30年度の研究助成事業として「臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究」の領域でより優れた学術研究・業績テーマに対して研究助成を行います。

早速ながら、本年度の研究助成金申請書を作成しましたのでお届けいたします。ご多忙中のところ、恐縮ではございますが貴機関の関係者にご伝達の上、平成30年5月31日(木、当日消印有効)までに、申請者ご自身から本財団宛申請くださいますようお願いの程、ご案内かたがたお願い申し上げます。

敬具

平成30年3月吉日

公益財団法人 黒住医学研究振興財団

代表理事・理事長 渡邊 治雄



※公益財団法人 黒住医学研究振興財団の事務局は  
東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7 栄研化学株式会社内にあります。  
TEL 03-5846-3504 FAX 03-5846-3514  
URL <http://www.kmf.or.jp> E-mail: [info@kmf.or.jp](mailto:info@kmf.or.jp)



公益財団法人 黒住医学研究振興財団  
平成30年度 第26回 研究助成事業募集要項

1. 研究助成事業の対象

研究助成は、臨床検査、衛生検査及びこれらに係る基礎医学に関する調査並びに研究で、より優れた学術研究・業績を研究助成事業の対象とし、若手の育成（原則として50歳以下）を主眼としています。（財団ホームページ「よくあるご質問」をご参照ください。）

2. 応募資格

医学関連の大学及びその他の教育機関、研究所並びに医療機関等において、本研究助成事業の対象領域において調査、研究に積極的に取り組もうとする個人とします。

ただし、大学教授及び国公立私立研究機関の部長並びにこれらに準ずる職位の方は除きます。

3. 対象領域

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| ① 臨床化学             | ② 分子生物学（医学） |
| ③ 臨床微生物学           | ④ 臨床免疫学     |
| ⑤ 検査血液学            | ⑥ 人体病理学     |
| ⑦ 疫学 <sup>注1</sup> | ⑧ 一般・生理学    |

の8つの領域とします。

注1：臨床検査・衛生検査についての集団(mass)を対象に扱う研究

4. 募集期間

平成30年3月9日（金）から平成30年5月31日（木）までとします。

なお、郵送の場合は当日の消印まで有効です。

5. 研究助成件数及び研究助成額

研究助成額は1件100万円を限度とし、15件以上とします。

研究期間は、原則として1年間としますが、終了しない場合は中間報告として研究・会計報告書を提出していただきます。

6. 応募方法

所定の申請書に必要事項を原則としてワープロソフトにより黒インクで記入し、本財団研究助成金選考委員会宛に送付してください。

なお、提出数は「原本と複写2部」の合計3部を送付してください。

☆財団ホームページ募集要項からWord 2013ファイルで申請書をダウンロードすることができます。

7. 審査方法及び通知

本財団の委嘱する審査委員が8つの対象領域ごとに審査したあと、選考委員会で選考審査を行い、理事会で決定します。その結果は、本財団ホームページに掲載し、受贈者にその旨を通知いたします。

8. 研究助成金の贈呈

平成30年10月26日（金）の小島三郎記念文化賞贈呈式にあわせて、研究助成金を贈呈します。

9. 受贈者の研究助成金受領後の義務

本財団の研究助成金募集要項により手続きを行っていただきますが、本財団の年報発行のため、次の①、②、④の事項を研究助成金受領後(贈呈式後)、1年以内に本財団事務局へ提出していただきます。

- ① 研究結果については2,000字以内の報告書の提出
- ② 会計報告の提出
- ③ 研究結果を発表する口頭発表(記録あり)、論文発表等には本財団の研究助成を受けた旨の附記(英字表記の場合は、「KUROZUMI MEDICAL FOUNDATION」)
- ④ 継続研究の場合は中間報告書の提出

※「研究報告書」の本財団事務局への提出が確認できなかった場合は、当該研究課題について贈呈した研究助成金の贈呈決定の取り消し及び返還を求め、所属する研究機関の名称等の情報を公表する場合があります。

10. 申請書類の提出先

〒110-8408

東京都台東区台東4-19-9 山口ビル7 栄研化学株式会社内

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 研究助成金選考委員会 宛

(問い合わせ先)

公益財団法人 黒住医学研究振興財団 事務局

TEL 03-5846-3504

FAX 03-5846-3514

E-mail info@kmf.or.jp

附記 ○必ず公益財団法人黒住医学研究振興財団のホームページから申請書をダウンロードしてご使用ください。（年度毎に改訂されますのでご注意ください。）

URL <http://www.kmf.or.jp/>

○ 所属機関長は大学長、研究所長、病院長及びそれに相当する職域の長であること。

○ 応募の書類は一切返却いたしません。